

曇雨天に対する農作物の技術対策

令和5年5月29日
農業技術課

1 気象概況

気象庁の週間天気予報では、今週から来週にかけて曇雨天が続く見込みであることから、管理作業への影響や病害の発生が心配されます。今後の気象情報に注意し、農作物の管理を徹底して下さい。

山梨県の天気予報（7日先まで）									
2023年05月29日11時 甲府地方気象台 発表									
日付	今日 29日(月)	明日 30日(火)	明後日 31日(水)	01日(木)	02日(金)	03日(土)	04日(日)	05日(月)	
山梨県	雨 	曇一時雨 	曇 	曇時々晴 	曇時々雨 	曇一時雨 	曇一時雨 	曇 	
降水確率(%)	-/-/60/70	50/20/20/20	40	20	80	70	50	30	
信頼度	-	-	-	A	A	A	C	B	
甲府 気温 (℃)	最高	22	27	24 (22~27)	27 (25~29)	26 (22~28)	27 (23~31)	27 (26~34)	26 (25~32)
	最低	-	19	16 (14~18)	16 (12~17)	18 (15~20)	20 (17~21)	18 (15~21)	16 (13~20)
向こう一週間（明日から7日先まで）の平年値									
降水量の7日間合計				最低気温		最高気温			
甲府	平年並 5 - 21mm				16.0℃		26.9℃		

2 農作物の技術対策

(1) 果 樹

週間天気予報では曇雨天が1週間以上続く見込みとなっているが、天気は周期的に変化するので、気象情報や生育の変化に注意し、次の項を参考に計画的に病虫害防除や栽培管理を徹底する。

<施設果樹>

- 急激な気温上昇に注意し、高温障害（ブドウの着色不良、モモの異常落果やフケ果など）対策のため、換気やかん水等の管理を徹底する。
- 気温が低い場合は、生育遅延の防止や果粒肥大のため、ビニールの開閉や加温により昼夜温の確保に努める。

<露地果樹>

<共 通>

- 降雨により病害の発生が心配されるので、週間天気予報を確認し、防除間隔が空かないよう、慣行防除を徹底する。

- 生育ステージは、昨年に比べ2日～5日程度進んでいるので、生育に合わせ昨年の散布日より前倒しで実施する。
- 散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を延期せず、降雨前に散布する。
- 連続的な降雨や強い雨が降った場合は、薬剤の残効が低下しやすいので、散布間隔を短くする。
- 雨の晴れ間に薬剤散布する場合、葉が濡れているときは、SSの送風ファンなどで露を払ってから散布を行う。

<ブドウ>

- ジベレリン処理時期を迎えているため、曇雨天が続く場合であっても降雨のない時間帯に処理し、処理後ロウ引きのカサかけを行う等、ジベレリン処理が遅れないようにする。
- 灰色かび病やべと病、黒とう病等の発生が心配されるので、共通事項に従い防除を徹底する。
- 開花期を迎えている園では、灰色かび病やサビ果防止のため、花カスの除去や薬剤散布を徹底する。
- べと病の発生が見られる園では、ジャストフィットフロアブル5，000倍を散布する。
- 晩腐病防除のため、第1回ジベレリン処理後に、できるだけ早くロウ引きのカサをかける。
- 防除暦やブドウ晩腐病防除マニュアルを参考に、落花直後と果粒の大きさが小豆大頃に、ペンコゼブ水和剤またはジマンダイセン水和剤1，000倍を散布する。
- 天候不順により防除やカサかけ、袋掛け等の作業が遅れる場合は、薬剤による果粒の汚染に注意しながら、セイビアーフロアブル20の2，000倍を散布する。

<モモ>

- 黒星病の感染期で、重点防除時期であるため、共通事項やモモせん孔細菌病防除マニュアルに従い防除を徹底する。
- 薬剤散布後は、できるだけ間を開けずに袋をかける。
- せん孔細菌病対策として、病斑部（葉、枝、果実）は見つけ次第除去し、園外へ持ち出す。

<スモモ>

- 大石早生などの早生種では、灰星病や果実腐敗病の発生に注意し、薬剤防除を行う。雨が多い場合は、追加防除を行う。発病果は伝染源となるため、見つけ次第土中に埋める等して適切に処分する。

○黒斑病対策として病斑部（葉、枝、果実）は見つけ次第除去し、園外へ持ち出す。

（２）野菜・花き

＜露地野菜＞

○ほ場が滞水しないように、排水路を設けるなど排水対策を徹底する。

○肥料切れによる樹勢の低下を防止するため、スイートコーンでは葉色、ナスでは花柱の長さ、花色、葉色をみながら追肥する。

＜施設野菜＞

○病害の発生を予防するため、施設内が過湿にならないよう、日中25～28℃前後を目標に換気する。

○灰色かび病、疫病、斑点細菌病などの病害の防除を徹底する。

＜花き＞

○日中のハウス内温度上昇と多湿による影響で灰色かび病等が発生しやすいため、こまめなハウス内換気に努めるとともに、かん水量を控えるようにする。

○鉢間隔を広げたり、追肥等の適正な施肥管理に努め、草勢の維持と促進を図る。

○洋らん類では、曇天時には遮光を控え日射量の確保に努める。また、曇天後の晴天による急激な日射量の増大による日焼けが懸念されるため日射量の調節に努める。